

ふくおか & MAFF

2019.12
vol.7

MAFFとは農林水産省の英語表記「Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries」の略称です。

Contents

- ➔ 意見交換を行いました ～東畜産ファーム～
- ➔ 総合化事業計画認定証交付式を行いました
～ 有限会社 耳納山(みのうざん)ファーム ～
- ➔ 米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針
- ➔ 2020年農林業センサスが実施されます



意見交換を行いました ～東畜産ファーム～

肉用牛肥育に飼料用米、WCS(稲発酵粗飼料)を積極的に利用。また、国産飼料の確保のため、収穫・乾燥調製作業を受託する組織を設立し、耕種農家を支援。

東畜産ファーム(大川市)

経営類型

主に肉用牛肥育

【飼養頭数】

福岡県大川市 黒毛和種 40頭 馬 60頭

佐賀県佐賀市 黒毛和種 150～200頭

熊本県阿蘇郡産山村

ホルスタイン種・F1種 400～500頭

従業員数

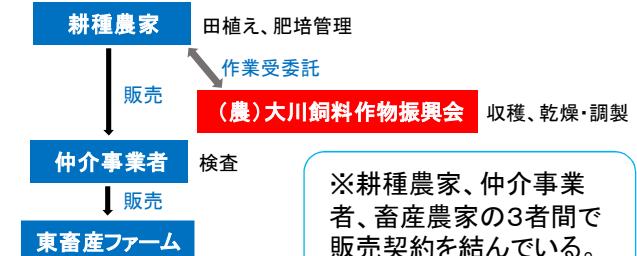
9名(家族2名、常時雇用6名、アルバイト1名)

飼料用米を活用した肥育経営

飼料用米の仕入れ

振興会が収穫・乾燥調製した飼料用米は、仲介事業者を介して購入。

〈飼料用米の流れ〉



※耕種農家、仲介事業者、畜産農家の3者間で販売契約を結んでいる。

国産飼料を確保する取組

(農)大川飼料作物振興会の設立(H26)

耕種農家の高齢化等により、飼料用米、WCS等の国産飼料の入手が困難になりつつあったことから、大川市内の他の畜産農家とともに、耕種農家の作業負担軽減を目的に、(農)大川飼料作物振興会(以下「振興会」という。)を設立。

振興会の取組内容

耕種農家と受委託契約(有料)を結び、飼料用米等の収穫・乾燥調製作業を受託(受託面積は100ha)。飼料用米とWCSの面積は、作業時期の分散のため半々となるようにしている。

取組の効果

①耕種農家は、作業負担が減り、米の作付を継続しやすくなった。

②畜産農家(振興会)は、国産飼料の確保が容易になった。

③耕畜連携支援(産地交付金)を活用し、耕作地へ牛糞堆肥の散布を行い、資源循環が可能となった。



飼料用米の給餌

ばら糶(フレコン)の状態での保管。必要量の糶すり・粉碎を行ったあと、近くの飼料会社に持ち込み、他の飼料原料と配合してもらう。

飼料用米のメリット・デメリット

輸入とうもろこしより安価。一方、飼料用米の配合割合を高くすると、消化吸収が悪くなる。(肥育牛では、全体の1/10程度まで)

課題と今後の予定

労働力不足

繁忙期(8月～11月)のみの期間雇用では人が集まらず、常時雇用でない人と人を雇うことは難しい。

子牛価格の高騰

子牛価格の高騰に対応するために、経営規模を拡大するか、繁殖肥育の一貫経営に取り組むか、検討中。現在、阿蘇牧場で試行的に10頭ほど繁殖牛を導入。



総合化事業計画認定証交付式を行いました ～ 有限会社 耳納山(みのうざん)ファーム(八女市)～



令和元年11月29日付けで、六次産業化・地産地消法に基づく総合化事業計画が認定された、「有限会社 耳納山ファーム」に認定証の交付を行いました。



なか
(有)耳納山ファーム社長の仲さん
(右から2番目)

今後、自社で飼育した豚肉を使用した加工品の開発、製造販売に取り組まれます。

既存商品に加え、
「豚ロースの味噌漬け・塩麹漬け」
「豚バラ肉の角煮」
が新商品として加わります。
ご期待下さい！



※「総合化事業計画」とは、
農林業者等が地域の農林水産物の生産加工及び販売を一体的に行う事業活動の計画です。国の認定を受ければ、様々な支援を受けられます。

現在、九州農政局での認定件数は446件、うち福岡県内の認定件数は77件です。

農山漁村の6次産業化について(九州農政局HP)

<http://www.maff.go.jp/kyusyu/seiryuu/syokuhin/rokuzika/index.html>



米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針

令和2/3年
(令和2年7月～令和3年6月)
の主食用米等の需給見通し



(単位:万トン)

令和2年6月末 民間在庫量	A	189
令和2年産 主食用米等生産量	B	708～717
令和2/3年 主食用米等供給量計	C=A+B	897～906
令和2/3年 主食用米等需要量	D	717
令和3年6月末 民間在庫量	E=C-D	180～189

農林水産省は令和2年産の主食用米等の需給見通しを盛り込んだ「米穀の需給及び価格の安定に関する基本方針」を公表しました。

《令和2年産主食用米等生産量》

令和2/3年主食用米等の需要量は717万トンと見通されることから、生産量の見通しは、708～717万トンと9万トンの幅を持って設定しています。



農林水産省は、米政策改革の定着に向け、戦略作物の本作化等による水田のフル活用を支援します。

米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針
(農林水産省HP)

http://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/beikoku_sisin/



2020年農林業センサスが実施されます

農林水産省では、令和2年2月1日現在で「2020年農林業センサス」を実施します。

農林業センサスは、農林業の実態を明らかにし、国や都道府県、市区町村はもちろん各方面にわたり、広く利用できる総合的な統計資料を得るための調査です。

全国の農家や林家をはじめ、すべての農林業関係者を対象に行われる『農林業の国勢調査』ともいうべきものです。



皆様のお宅や会社等に調査員が調査に伺いましたら、ご協力をお願いします！

2020年農林業センサス(農林水産省HP)
<http://www.maff.go.jp/j/tokei/census/afc/>



【お問合せ先】九州農政局福岡県拠点地方参事官室
〒812-0018 福岡県福岡市博多区住吉3-17-21 TEL 092-281-8261(代表)
<http://www.maff.go.jp/kyusyu/fukuoka/index.html>